

身長・体重・腹囲	測定した比率から、太りすぎや、やせすぎの度合いを見ます。	超音波	肝臓、胆のう、腎臓、膵臓、脾臓などの病変の有無や程度を、体外から観察することができます。
血圧	血圧は、心臓が血液を押し出す力と血管壁の抵抗で決まります。	眼底	眼底の血管の変化から眼疾患だけでなく、高血圧や動脈硬化、糖尿病などの診断に役立てることができます。
尿検査	尿から排泄された成分を見ることにより、体内の異常を調べます。	便中ヘモグロビン	口腔から肛門までの出血の有無を調べます。とくに大腸の疾患が多くみられます。
心電図	休みなく動き続ける心臓に、微量の電流を波形として記録し、不整脈や心筋などの異常を調べます。	眼圧	緑内障では高くなり、低い場合は、網膜剥離や外傷などが疑われます。
胸部X線	肺や、心臓などの異常の有無を調べます。	呼吸機能検査	肺の容量や換気能力を調べます。
胃部X線	造影剤を用いて胃や十二指腸などの異常の有無を調べます。		

貧血・血球数		脂質代謝	
白血球数	感染や炎症で増加しますが、激しい運動や入浴、ストレスなどが原因で一時的に増加することもあります。	総コレステロール	高値では動脈硬化が心配されますが、細胞やホルモンをつくる重要な働きもある為、適度な値が望まれます。
赤血球 ヘモグロビン ヘマトクリット	赤血球は血液の主成分、ヘモグロビンは血の赤さのもと、ヘマトクリットは赤血球の体積の割合です。低値では貧血を表し、赤血球数ヘマトクリットが高くなると血管がつまりやすくなります。	中性脂肪	中性脂肪の多くはエネルギー源として利用されますが、蓄積が過剰になると脂肪肝や肥満を招きます。
血小板数	止血機能の検査です。各種の血液疾患又は、出血しやすい人の原因解明に役立ちます。	LDL コレステロール	コレステロールなどの脂肪を運ぶ働きをしており、直接、動脈硬化と関係することから「悪玉コレステロール」と言われています。
血清鉄	血液中の鉄分の量を調べます。	HDL コレステロール	血管の内側に付着したコレステロールを肝臓に運び去る働きをすることから「善玉コレステロール」と言われています。運動で増加します。
肝機能		nonHDL コレステロール	動脈硬化性疾患予防ガイドラインの改定とともに、LDLコレステロールよりも信ぴょう性の高い数値とされています。
AST(GOT) ALT(GPT)	肝臓の機能を調べる検査ですが、ASTは心筋梗塞、ALTは胆道系にも必要な検査です。	尿酸	
γ-GTP	肝臓や胆道の障害により、高値となります。アルコールに敏感に反応するため、肝機能障害のチェックに役立ちます。	尿酸	通常は老廃物として肝臓から排泄されますが、美食や飲酒、又は腎機能障害がある場合に血液中に増加し、痛風を招きます。
ALP	GOT・GPTの値と考えあわせることで、肝障害の識別に役立ちます。胆道や骨の疾患においても上昇します。	腎機能	
ZTT	肝硬変では著しく上昇します。	尿素窒素 クレアチニン	腎臓の排泄機能低下の場合、血液中の濃度が高くなります。クレアチニンの数値は男性よりも女性の方が低く、年齢とともに定値となります。
総蛋白	血液中に含まれる蛋白の総称。全身の栄養状態や、肝障害の程度を判断するのに役立ちます。	eGFR	腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示しており、この値が低いほど腎臓の働きが悪いということになります。
アルブミン A/G比	アルブミン、グロブリンの比率から、肝臓などの障害を調べます。肝機能に異常が生じた時、A/G比は低くなります。	肝炎	
総ビリルビン	黄疸の有無、程度や種類を調べます。	HBs抗原/抗体	B型肝炎ウイルスに感染しているかを検査します。
LDH	肝臓、心臓、筋肉、赤血球などの障害や悪性腫瘍で異常値を示すことがあります。	HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染しているかを検査します。
膵機能		炎症・感染	
アミラーゼ	膵臓、唾液腺より分泌される酵素で、肝臓の障害を調べる代表的な検査です。	CRP	細菌やウイルス感染による炎症や非感染性炎症の有無や程度などがわかります。
糖代謝		その他	
血糖 HbA1c	血液中のブドウ糖を測定し、糖尿病を調べます。HbA1cの値は、おおよそ過去1〜3か月の平均血糖値を表します。	CPK	血液中のCPK値から、心臓をはじめ骨格筋、平滑筋など筋肉の細胞に異常がないか調べます。

検査項目名称	内容	値が上昇することがある主なガンの種類・疾病	基準値
NT-proBNP	心臓から血液に分泌されるホルモンを測定し、心臓の元気をみる血液検査です。	心不全・心筋梗塞の診断	55.0 Pg/ml
CEA	多くの腫瘍で高値となるため特異性は低く、主に消化器系の腫瘍に広く用いられている腫瘍マーカーです。	胃・膵・大腸・結腸・甲状腺・肺・肝臓・胆道・膀胱・子宮・卵巣・乳ガン など	5.0 ng/ml
AFP	胎児の血清に見られるタンパク質の一種で、出生後は消失しますが肝臓ガンになると増加します。	肝臓ガン・胃ガン・膵臓ガン・卵巣ガン など	10.0 ng/ml
CA19-9	消化器ガン(特に膵臓ガン)に特異性の高い腫瘍マーカーです。	膵臓ガン・胆道ガン・胃ガン・大腸ガン・卵巣ガン など	37.0 U/ml
シフラ(CYFRA)	肺ガンのうち扁平上皮ガン、肺腺ガン、大細胞ガンなどの非小細胞ガンで高値を示し、乳ガン、卵巣ガンでも高値をします。	肺ガン(扁平上皮ガン、肺腺ガン)・卵巣ガン・乳ガンなど	3.5 ng/ml
PSA (男性のみ)	前立腺ガンに特異的な腫瘍マーカーです。	前立腺ガン など	4.000 ng/ml
CA125 (女性のみ)	卵巣ガン・子宮ガンに特異的な反応をしめす腫瘍マーカーです。	卵巣ガン・子宮ガン・乳ガンなど	35.0U/ml
CA15-3 (女性のみ)	乳ガンなどに特異性があり、転移性乳ガンに陽性率が高く手術後の経過観察に大変有用な腫瘍マーカーです。	乳ガン・子宮ガン・卵巣ガン・肺ガン・膵臓ガン など	27.0 U/ml
ピロリ菌	ヘリコバクターピロリ菌の抗体を測定し、感染を見つける血液検査です。	慢性胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃ガンの原因となります。	10未満 U/ml
血清ペプシノゲン	胃ガンの危険度を調べる血液検査です。	慢性萎縮性胃炎・胃ガン など	(-)